

ぜんによんさ、の高塚さんは昔から、農業専門の家業であったように思う。前の納屋から、勢い良く農作業の音がしたのが、隣に生まれた私の幼児期の記憶である。

家の前に植えられた楠は、根上町でも自慢できる、千年木の一つではなからうか。

米沢の家は、明治末の四十年代には、亀田さんの地所であった。

根上村が発足してから暫く経つてから、濁池小学校を建てる費用でもめた事が、発端になって、折角出来た、根上村から福江村が分離騒ぎが起きたことがある。

中の江から出た村長が辞め、五間堂から出た村長が一ヶ月も持たないで辞めた事件が起きてしまった。

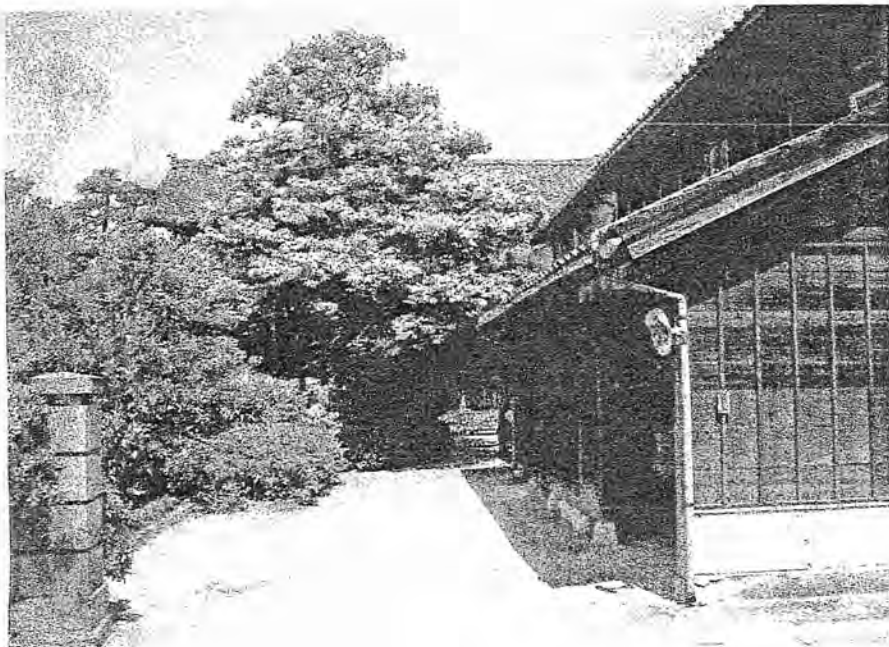
福江村出身の村会議員が総辞職を決議した事件のあと、米沢與三松が、第二代の根上村長に祀り上げられてしまった。

その時分に、まだ一村さんの地所を借りていたので、米沢の家は明治末年に建てられている。

「おい」の棟木は、祖父の話では手取川口で難破した船の竜骨を使ったのだとの、話を記憶しているので、そうかも知れない。

高田さんの家は、酒店で「一杯飲み屋」であった。

親父さんは、いつも禪姿で、鉢巻を離さない「つうつ」で、「やあや」も腰巻姿の気さくな婦人であった。



息子さんはみな大きく健康そのもので長男は「福の浜」と呼ばれる、草相撲の大関で、大きな旗木を優勝の景品として貰い、在所挙げて運んできた、記憶がある。

今でも、日吉神社の「旗木」として残っている筈だ。